農業気象技術対策資料

台風第７号の接近に伴う農作物対策資料

令和８年６月25日（木）

愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課

事故は取り返しがつきません 。あなたの命が何よりも大切です。

〇人命を最優先に考え、暴風雨や異常な増水が発生している間は、決して農地や農業用施設の見回りを行わず、最新の気象情報を十分に確認すること。

〇暴風雨などが収まった後の見回りにおいても、増水した水路やその他危険な場所には近づかず、足元やほ場周辺の安全確保に十分配慮し、転落や滑落事故の防止に努めること。

〇特に、過去の地震や台風、記録的な豪雨などで被害を受けた地域では、土砂災害に細心の注意を払い、常に人命を最優先に行動し、二次災害の発生防止に最大限努めること。

１ 水 稲

（１）事前の対策

〇事前に排水路の詰まり等の点検・補修を行い、冠水時の速やかな排水に備えること。台風が接近してからの点検は、川の増水等により人命に危険があるため、降雨前に必ず済ませておき、決して増水中の川や水路に近づかない。

（２）事後の対策

〇浸水、冠水被害を受けたほ場では、速やかな排水に努めること。海水が流入した場合、早急に排水し、速やかに真水をかけ流す。

〇潮風水害を受けた場合には、できる限り速やかに散水により除塩を実施すること。

２ 野 菜

（１）事前対策

ア 施設野菜

〇強風に備えて、取り付け金具の緊張、抑えひもによる固定、妻面の補強等の防風対策に努めるとともに、飛来物による損傷を防止するために施設周辺の清掃、防風網の設置等に努める。

〇栽培を終えたビニールハウスは、ビニールを張ったまま放置せず早く除去する。

イ 露地野菜

〇ほ場内の早期排水対策として、あらかじめ溝切り、畦立て等の管理作業に努める。また、台風による風害・潮風害のおそれのある場合には、べたがけ資材の利用等により被害回避に努める。

〇収穫期に達しているものは、事前にできるだけ収穫し、株重を軽くする。

〇定植後の幼苗は、支柱等により倒伏を防止する。支柱やネットを設置している

作物は、確実に固定されているか確認し、必要に応じて補強しておく。

（２）事後対策

ア 被害の軽微な場合

○冠水や浸水等を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。また、土寄せ、追肥、液肥の葉面散布等により生育の回復に努めるとともに、病害虫の発生を防止するため、折損した茎葉の除去と適切な薬剤散布を行う。

○果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若採りにより着果負担を軽減する。

○台風通過後は葉面からの蒸散が激しく、水分不足となりやすいので、必要に応じてかん水する。

○生育初期のほ場で、折損や流亡のため欠株が生じている場合は、予備苗 （余り苗）を速やかに補植又は再播種する。

イ 被害の甚大な場合

○海水の流入や潮風などで茎葉が枯死した野菜のうち、収穫期に達している野菜は、多少未熟でも商品価値の落ちない内に収穫する。

○被害が著しい場合には、残渣を速やかに除去し、他の品種又は作物に転換することも検討する。

３ 果 樹

（１）事前の対策

○土砂崩れ、土砂流入を防止するため、排水の悪い園地では排水路の確保と点検を実施し、水が停滞しないように努める。特に傾斜園地では、速やかに排水できるよう等高線上に排水路を設置する。

○強風に備えて防風網や果樹棚支柱等の点検・補修を行う。また、倒伏や枝折れが心配される樹体は、支柱に結束し補強する。

（２）事後の対策

○土砂崩れ等で埋没、流出の被害を受けた園地では、安全性を確認の上、埋没、流出樹の処理を行い、二次災害を防止する。

○冠水、浸水した園地では、必要に応じて客土や支柱立てを行い、樹勢低下を防止する。

○樹勢低下や落葉が見られる場合は、着果を制限して樹勢維持に努める。

○倒伏した若木等は、健全な根を切らないよう早めに起こし、支柱を立て結束する。枝の折れたところは平滑に切り殺菌剤を塗布する。軽い股裂けは、ひもで結束して癒合を促す。

○かんきつ類で潮風害を受けた場合は、直ちに散水して除塩作業を行う。除塩ができずに落葉、落果等の被害を受けた場合は、樹勢回復のため液肥の散布、摘果を実施する。

○落葉、落下した果実は速やかに園外に持ち出すとともに、防除指針に基づき適切な防除を行い被害の拡大を防ぐ。
○台風通過後はカメムシ類の発生が増加することがあるため、園内への飛来と被害に注意し、防除を行うこと。

表 作物と注意の必要な病害

作物名	病害名
かんきつ類	かいよう病、黒点病
キウイフルーツ	かいよう病、果実軟腐病
ぶどう	黒とう病、褐斑病、晩腐病、さび病
くり	炭疽病
なし	黒星病、輪紋病
もも	せん孔細菌病、黒星病、灰星病
かき	落葉病、炭疽病
びわ	がんしゅ病

4 花き類

（1）共通事項
○収穫可能なものは事前にできる限り収穫しておく。
○ハウス周囲の側溝等による雨水の流入防止、露地花きでは停滞水による病害発生を防ぐため明渠を施工する等、十分な排水対策を徹底する。

（2）事前対策
ア 施設花き
○ハウスの倒壊を防ぐため梁の継ぎ手・柱の接合部等につなぎ材を入れ補強する。
○ビニール等被覆資材の飛散を防止するため各部点検し、破損箇所を補修する。
○窓は十分に締め付けておく。
○飛来物による破損を防ぐため、ハウス周辺の点検・片付けを行う。
○採花期に達しているものは、事前にできるだけ採花しておく。
イ 露地花き
○生育途中～出荷時期のものはネットや支柱のゆるみを直し、補強する。
○マルチは風による剥がれを防ぐため、土寄せや市販止め具等によりしっかりと抑える。
（2）事後対策
ア 施設花き
○早急に施設を見回り、開閉装置や配電盤、ブレーカー等の動作確認を行うとと

もに、破損箇所を補修する。
○防風のために使用していた被覆物(寒冷紗等)は早急に除去する。
○ビニール破損等により株元がねじれたり倒伏した株は、速やかに支柱やネットを修復するとともに、被害株を立て起こし、茎や花穂の曲がりを防止する。
○施設を密閉すると高温多湿になりやすいので、台風・多雨後は速やかに換気し、病害発生が懸念される場合は薬剤散布により予防的防除に努める。
イ 露地花き
○大雨で水が停滞しているほ場では、根の活性低下を抑制するため、畝間の停滞水を速やかにほ場外に排水する。
○養分吸収能力が低下するため、液肥の葉面散布を行い、生育促進を図る。
○肥料の流亡が懸念される場合は、土壌分析を実施して適正量の肥料を施用し、草勢回復を図る。
○倒伏株は早急に立て起こすとともに、できる限り茎葉を立て直し、土寄せして回復を早める。また、茎の折れたものは、切り返して再整枝する。
○茎葉の損傷が甚しく回復の見込みがない場合は、早急に被害株を除去し再作付けの準備をする。
○茎葉の損傷により病害虫発生が懸念されるため、損傷した茎葉や花を除去し、定期的な薬剤散布による予防的防除を実施する。

5 畜産

（1）事前対策
ア 畜舎・家畜管理
○施設の損傷・倒壊等を防ぐため、事前に施設を点検し必要に応じ補修、補強を行う。
○畜舎や堆肥舎周辺の排水溝清掃や浸水対策（土のう）等を行う。
○停電に備え非常用電源を確保している場合には、試運転やメンテナンスを実施する。
イ 飼料
○ほ場周辺の排水溝の設置、排水溝の清掃を行う。
○配合飼料等は、変敗防止のため雨水等が流入しない場所に保管する。
（2）事後対策
ア 畜舎・家畜管理
○天候が回復した後、畜産施設内及びその周辺の排水を行う。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去する。
○冠水等があった場合には、畜舎内の洗浄、消毒や敷料の交換を実施するとともに、個体観察を強化し異状が認められた場合には速やかに獣医師に相談する。
○台風通過後は、気温の上昇等が起こりやすいため、適宜、換気を行う。

イ　飼料

〇飼料作物は、倒伏や折損の状況を見て、早めの収穫や調製方法の変更を検討する。

〇浸水等のあった飼料をやむを得ず給与する場合には、変敗がないか確認し、栄養価、安全性、嗜好性等にも留意すること。